

平成27年度 第2回榊引地域振興懇談会 (会議録・概要)

○日 時：平成27年11月19日(木) 午前10時から午前11時40分まで

○会 場：榊引庁舎 第一会議室

○出席者：敬称略

(出席委員) 渡部俊美、斎藤ゆう子、武田啓之、澤川宏一、遠藤勉、佐久間忠勝、
上野由部、今野慎太郎、重松美鈴、宮城良太

(欠席委員) 成田新一、小島英敏、長南光、秋山篤司

(市側) 榊引庁舎支所長 榊原賢一、総務企画課長 佐藤浩、市民福祉課長 山口弘男、産業
課長 宮崎哲、建設部南部建設事務室長 伊藤哲哉、企画部政策企画課課長補佐
粕谷一郎、同課主査 上野修、企画部地域振興課地域振興専門員 齋藤芳、榊引庁
舎総務企画課課長補佐 前森淳子、同課総務地域振興専門員 大宮将義

一次 第一

1 開 会

2 あいさつ

3 協 議

(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について

4 そ の 他

5 閉 会

.....

1. 開会

総務企画課長

皆さん、おはようございます。本日は何かとご多用のところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。ご案内の時間より3分ほど早いのですが、本日、予定されている皆さんがお揃いですので、これから平成27年度の第2回であります榊引地域振興懇談会を開会してまいります。皆さんのお手元に配布しております次第によりまして進めさせていただきます。先ずはご挨拶をいただきたいと思います。はじめに振興懇談会渡部会長よりご挨拶をお願いいたします。

2. あいさつ

渡部会長

あいさつというよりも報告からですが、皆さんもご承知と思いますが懇談会委員の榊引自公連会長の成田進さんがお亡くなりになりました。急なことであり、謹んでお悔みを申し上げます。今日は第2回目の地域振興懇談会です。今日は鶴岡市の総合計画の説明がありますので、その説明を受け、説明が終わった後に、皆さんからご意見をいただきたいと思いますので、どうぞ、よろしくをお願いいたします。

総務企画課長

ありがとうございました。続きまして、榊引庁舎 榊原支所長よりご挨拶を申し上げます。

榊引庁舎支所長

皆さん、おはようございます。本日はお忙しいなか、第2回目となります榊引地域振興懇談会にご出席をいただきましてありがとうございます。委員の皆様方には、日頃よりそ

れぞれのお立場から地域振興に格別のご尽力いただいておりますことに厚く御礼申し上げます。ただいま、会長からもございましたが、本懇談会委員の櫛引自治公民館連絡協議会会長の成田進さんが、11月15日にお亡くなりになりました。これまでの地域振興への多大なご尽力に深く敬意と感謝の意を申しあげますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、本日の懇談会ですが「鶴岡市総合計画実施計画の策定について」をご協議いただきます。平成30年度までを期間とする本市の一番上位にある計画であります鶴岡市総合計画であります。この実施にあたっては3か年の実施計画を策定し、毎年度ローリング方式で見直しを行っているものであります。実施計画の策定にあたりましては、各地域の振興懇談会や鶴岡まちづくり塾の方々のご意見を伺い、そのあと、市総合計画審議会で協議し、最終的には市議会への説明、協議という形になります。

したがって、本日の懇談会では、委員の皆様それぞれの立場から、忌憚のないご意見を頂戴し、総合計画の実施計画の策定に活かしてまいりたいと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

3. 協議

総務企画課長

ありがとうございました。それでは早速、3の協議に移りたいと思いますが、ここからは設置要綱の定めによりまして、渡部会長から議長を務めていただきたいと思っております。

渡部会長

それでは、暫時の間、進行させていただきますので、どうぞ、よろしく願いいたします。(1) 鶴岡市総合計画実施計画の策定について、事務局の説明をお願いします。

政策企画課主査 説明

資料1 一略一

渡部会長

ただいまの説明に対して、質問したいこと、またご意見のある方はいらっしゃいますか。はい、佐久間委員。

委員

実施計画の13頁ですけれども、市民スポーツの振興という取組みの中に、「適切な施設整備や施設運営を進め、スポーツ環境の充実を図る」という概要が掲げられておりますので、体育協会の立場からお話しさせていただきます。体育施設の運営管理についてはご承知のように、鶴岡市体育協会が鶴岡市から委託を受けて行っている状況であります。櫛引地域の体育施設については、スポーツセンター、総合運動公園、夜間照明ということで対象になっているわけですが、スポーツセンターは現在、建設から22年が経過いたしました。その中で、ギャラリーとアリーナの雨漏りが最近発生しているということでもあります。スポーツセンターは櫛引地域だけではなく、鶴岡市全体からの利用が多くありまして、26年度で47,000人の利用がありましたけれども、他にも櫛引全体の行事やイベントなどにも、幅広く活用されているという状況であります。最近では、全国大会とか国際交流だとか色んな大きな大会が鶴岡市の小真木原を中心にして開催をしながら、付带的に櫛

引のスポーツセンターという感じでやっていますけれども、今年の夏は日本と韓国の日韓交流の中学校バトミントン交流大会が一週間くらい行われました。それから、今後も全国大会が予定されており、来年の3月28日には全国高校選抜バトミントン大会、それから29年8月頃にはインターハイのバトミントン大会がスポーツセンターで予定されています。その関連で、この前、全国の関係者、いわゆる主催者側の方から連絡がありまして、今月の26日には会場の視察に行きますと連絡があつて、それに対応することになっています。全国大会の運営に支障があるような雨漏りがありますので、大会運営の受入れに必要な修理修繕や施設整備については今回の実施計画の中で、しっかり位置づけをしながら、整備を行ってほしいと思っています。これは修理修繕でありますけれども、スポーツセンターの屋根に絡む部分でありますので、何十万円とかではなくて、かなり金がかかるので、これはぜひ、実施計画の中で、しっかり位置付けをしていただき、必要だという認識を強く持って、実施してもらえればと思います。なお、鶴岡市体協からの話しはあると思うのですが、全地区を対象に話しをするものですから、密度が薄まる可能性があるので、この機会に櫛引の課題等について話しをさせていただいたわけでありまして。

それから、櫛引総合運動公園につきましてはグラウンドゴルフ場も新たに整備されたことから、非常に利用者が増えておりまして、26年度で34,000人、それから27年度で38,000人と、これも櫛引だけでなく、鶴岡市全体からの利用者や団体が来ておりまして、大変賑わっているという状況であります。それから夜間照明については2箇所あるわけですが、野球場の夜間照明については、櫛引の野球連盟とか鶴岡市の野球クラブとか野球関係者が中心になるわけですが、最近は今年甲子園にいった鶴岡東高校や羽黒高校の日中の利用も含めて夜間の利用も非常に目立っているというか、増えてきている状況であります。これは今後も多いに活用して、甲子園に是非、何回も目指してほしいと思っております。それから、夜間照明について、もうひとつの櫛引中学校グラウンドの夜間照明ですが、中学校の照明といいますと社会体育の施設とはまた違ったものとイメージするのですが、この中学校グラウンドの照明については、夜間は体育協会管理になっています。したがって野球場は野球関係者が中心となって、照明を使いますけれども、サッカーとかソフトボール、それから陸上だとか、こういった団体については中学校グラウンドに集中しておりまして、これも利用がどんどん増えております。26年度で4,900人、27年度は5,600人になっていまして、このような利用の中で、種目によっても違うのですが、部分的に暗いということで、照明施設の増設が強く要望されております。やっぱり、生涯スポーツのためにも、適切な明るさの中でスポーツ活動がやれるように、今ある中で足りない部分を増設ということですから、1から2基くらいの増設ですが、経費については見積をとっていないのでわからないのですが、こういったものを3ヵ年の実施計画の中で、何とか盛り込んで将来的な整備にできないのかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

政策企画課主査

只今のお話しの現状とご要望について、スポーツ課と相談させていただきます。

委員

全国大会がほとんど決まっているみたいで、26日に関係者が来た際には、雨漏りがしていると言わないとダメなものですから、言ったら直した方がよいと言われるわけですし、他にも、あっちこっち痛んでいるところがあるので。すべて言ってもきりがないので、それらを中心に受入れに必要な修理修繕という体制を整える必要があると思ひます。これは鶴岡市体育協会の事務局にはまだ正式に話していないことなので、櫛引の意見をま

とめて、間もなくそちらを通して、必要なルートで必要な組織に話しをしようと思うのですが、ここで強く認識をしていただいて、必要性を強く持っていただきたいと思ひ話しをさせてもらいましたので、ぜひ、よろしくお願いいたします。

委員

この実施計画は28年3月末には公開するとのことですが、そこでお聞きしたいのですが、3頁の鶴岡ルネサンス宣言の中でどの項目の中にも、「文化」という言葉を付けていらっしゃいます。その中で、真ん中のまちづくりの基本方針の中では、例えば学術産業都市というのは「文化」が付いておらず、ルネサンス宣言では学術文化都市となっていて、「産業」との関わりだとは思いますが、森林文化都市ということではいずれにも「文化」を使っています。この辺の一貫性が見えなかったものですから、鶴岡市として「文化」というものを、どのように捉えているのか。いわゆる辞書的なことで理解してよろしいのか。この辺は捉え方が違うのではないかなと思ったものですから、その辺りをお願いいたします。

政策企画課主査

真ん中と右側と構成が違うというお話でしたけれども、真ん中のまちづくりの基本方針というのは、総合計画を一番はじめに作った平成21年度になります。そのときに、基本方針を3つ作ったということで設定させていただきました。その後、右側にあるルネサンス宣言に基づくまちづくりということで、榎本市長が掲げるまちづくりの基本方針ですけれども、これは策定後にこの部分が入ってきたということでありまして、この書きぶりが若干違っているところをご了承いただきたいと思います。あとは、「文化」という捉え方ですけれども、各地域にあります、これまでのいいものを生かしながら、それを生かして次の未来を展開していこうという考え方でルネサンス宣言を構成しておりますけれども、そういうことを踏まえまして、もともとあるこの文化的なものや、文化に限らず蓄積されている地域資源等を生かしながら、新たなものに繋げていこうということで文化という言葉を使っております。

委員

教育文化という分野に入ってくるものと思いますが、5頁のところに市民の芸術活動の充実とあります。合併前と合併後ということでお話しさせていただきますが、合併前だと町村においては、それぞれの町村の民俗芸能というものに対して、それぞれ手厚くなってきたと思うのです。ところが、旧鶴岡市においては、民俗芸能に対するそういった組織立てがなかったと思うのです。それを、旧鶴岡市が何でまとめていったかという、それは芸術文化としての捉え方なのです。しかし、旧鶴岡市を見ても民俗芸能というのが非常に多くありまして、合併した段階での鶴岡市の民俗芸能は140を超えるのです。なのに、民俗芸能という言葉が出てこない。民俗芸能を鶴岡市としてどうしていくのか、というのが見えないです。例えば黒川能だけでなく、非常に重要な民俗芸能が鶴岡市にいっぱいあるのです。では、なぜ強調するかと言いますと、それぞれの地域に必ずといっていいほど、農工民族ですから収穫祈願とかの祭りが必ずあります。そういったものは地域と生活との繋がりが一番大きい。その中で行われる祭り、行事の中で育まれている民俗芸能というものが、その地域の一体化を生んでいるわけですし、それを活用しながら各地域の人達は生きてきたはずなのです。歴史的に見ても、酒井家が入ってきてからこういった祭りとか民族芸能的なものを非常に良く庇護しているのです。それを鶴岡市の活性化にも繋げているのです。私もびっくりしたのは、盆踊りというのは鶴岡市の中で、非常に大きな祭りだったようです。毎年、別の踊りが出てくる。その別の踊りが出て来るというのは、全国

レベルでコンテストをやっているのです。いわゆる盆踊りを活性化させているというのが、資料にありました。と同時に我々は黒川能も酒井様から庇護されましたけれども、おそらく我々だけではなく、他の民俗芸能にもやってきたわけですが、だから今、生きていられる部分もあると思います。ですから、地域の活性化とその地域の祭りとか民俗芸能というものが、どう関連付けられていたかとか、その関連性の中で地域の人達が、どれだけ大きな力を持って生活していたか、ということが忘れられてきているのかなと思います。大きいところだけに目がいっているような。例えば藤島の獅子踊りがすごい数がありますし、アクロバティックなものもありますし、わりと危険な踊りをするものですから、後継者がいない。悩みながら民俗芸能の団体で話す機会があればいいんですけども、文化の中で民俗芸能という言葉が鶴岡市ではなくなっているのです。だから、入れてほしいのは入れてほしいのですけれども、鶴岡市として、民俗芸能をどう捉えていくかというのを知りたいです。

政策企画課主査

コミュニティの活性化とか、そういった部分で民俗芸能という一文はあるのですが、基本的には後継者が少なくなって、大変だとお聞きしておりますし、その部分は地域の集落を維持していくということでは、大事なところでございます。ただし、文言としては入っていないのですが、改めて、そこは検討させていただきたいと思います。これは、なくてはならない部分と認識しているところであります。

委員

言葉が入っていないと、各地域で頑張っていると思うのですが、任せきりになると、どうなのかなと思います。私が活動している部分では、民俗芸能の中で、食文化とがっちりぶつかる部分があるのです。そこを開発していくと、また新しいものが出来てくるわけです。いろんな地域のなかでもそうしたことがあると思います。ですから、芸術文化の方では大変申し訳ないのですが、鶴岡市は音楽に走りすぎていると思います。その調整というか兼ね合いというのを考えてほしいです。ちょっと離れば百姓なので、農業をないがしろにははいけないと思います。その農業というのは、大抵が祭りとかぶつかってくると思います。

櫛引庁舎支所長

ただいまの件ですが、実施計画の中には文言としては、地域の振興ビジョンとか、地域振興計画の推進には、伝統芸能とかありますけれども、総合計画の後期基本計画には、「芸術の振興と文化資源の保存継承」というひとつの節がありまして、そこにはきちっと伝統文化、伝統芸能の後継者育成を支援するといった内容で、盛り込んだ形になっていると考えているところです。

総務企画課長

総合計画本文と実施計画はまた違う発行となるわけですので、委員がおっしゃることはわかります。

委員

2つお願いします。22頁に食文化創造都市を担う人材育成ということで、庄内農業高校や加茂水産高校、いわゆる実業校というところでの情報発信で掲げられているわけですが、中央高校も食文化に大きく関わっていることを新聞で目にします。それで、高校生バイオサミットを実施するようですが、その食の部分においても、もっと市内の高校をすべて網羅したような形で、進学校は別といたしましても、もう少し市が応援していくべき大きなイベントとか、例えば食の甲子園みたいなものを開催して、若い人中心に元気が欲し

いなあと考えています。これは計画ですので具体的な計画を立てて、ぜひ事業として、この分野もバイオだけでなく、上野先生からもありましたけれども、ぜひ応援していただければと思います。もうひとつは、観光の面ですが、庄内空港に降り立った時に、富樫実先生のモニュメントが目につくし、そして美咲町のモニュメントも周りの景観に馴染んでいるし、まわりの環境も良く整備されていると思います。ところが、富樫先生の生誕地であります櫛引に入りましたら、ゆ〜Town のところ、どこまで指定管理になっているかわかりませんが、モニュメントに夜間照明がついているわけですが、その照明器が4基ありますが、2基が雪でつぶれたままではないかと思えます。とても夜間照明を付けられる状況ではないので、周りには総合運動公園、柏戸記念館やせせらぎ広場もありますので、ゆ〜Town のところのモニュメント照明を新しく設置できないとしたら、せめて壊れたものを雪が降る前に撤去していただくことは考えられないのかなと思います。この前、モニュメントを見る機会に接しまして、感想を持ったものですから、改善していただきたいと思えます。以上です。

政策企画課課長補佐

私の方から食文化創造都市の人材育成ということでお話しいたします。今、庄内農業高校と加茂水産高校の実業高校という位置づけで記載しております。委員から話のあった食の甲子園や全国規模の色々な大会に庄内農業高校とかが出品、参加しております。市内にはたくさん高校がありますので、中央高校ですとシルクガールズとか別の活躍をされているわけですので、こちらの高校の位置付けはないのですが、食文化の活動が顕著な実業高校の2校だけあげさせていただいたわけです。今ほどありました食文化というのは全てに通じるものですので、そのあたりを検討させていただいて、今後の施策の方に盛り込めるのか、当然、県立高校ということもございますので、プログラムのなかでどこまで出来るか、お約束は出来ませんが、考えていきたいと思えます。

産業課長

2つめにお話のあったモニュメントの件ですが、管理している指定管理者とも相談しながら、対応していきたいと思えます。ありがとうございます。

委員

9頁の学術文化都市のなかで「バイオクラスターの形成」ということがあります。新規で「地域農産物の高付加価値化」というのがあります。メタボローム解析とか、地域農産物とあります。別のところでは「6次産業化の推進」というのがありますが、6次産業化に取り組んでいる個人やグループが鶴岡市にもあるわけで、その取り組みは活発に行われていますが、販売には必ずしもつながっていないという傾向があると思えます。そういった意味でも、メタボローム解析でその商品をきちんと、単なる言葉ではなくて、これだけ優れているんだよという形を出して販売に繋げていければと思うのです。ここでネックとなるのは、その解析に関わるコストとかは、かなり高いと聞いています。数十万円とか。それは分析の数によるのですが、それを数千円単位とか、高くても1万円単位とかで分析するような形に行政の支援はできないのかなと思うのです。新規事業ですので、要望として言うておきたいと思えます。

政策企画課主査

ただいまおっしゃられたように、メタボローム解析技術を使って、このようないい制度がありますよというのを売りにしていければなという構想の事業なのですが、これから始めるので組立てはこれからなのですが、経費がかかりすぎるというのは、認識がなかったもので、そういったものを含めながら、どういう支援、取り組みをしていくか検討して

いきたいと思います。

委員

今の件と関連するかもしれませんが、採択されたばかりのTPP問題に対して、市としてどのような対応をお考えでしょうか。総合計画を策定するのであれば、その対応についても取り入れてもらいたいと思います。

産業課長

産業課には農業分野しか情報が入っていないのですけれど、TPPが発効するには時間があり、早くても平成30年になるのではないかと思います。現在は情報収集という段階でして、県の方でも状況の説明会がありましたけれども、そのような段階でして、市の方としても様子見という状況であります。

委員

時間もありますけれども、いきなり変わって準備時間がなかったとならないように、速やかに対応等考えていただければと思います。

委員

行政で一番の課題だと思いますが、人口減少の加速化を取り上げられていますけれども、具体的な対策というか、その辺がまだはっきり分からない気がします。昨日の朝日新聞に島根県の藤山浩先生の田園回帰1%宣言という記事が載っていたのですけれども、いわゆる集落単位での取組みが大切だと思うのです。櫛引の場合、幸い集落公民館があるわけで、そこで色んな活動を実施しているわけで、それに対する、朝日、温海は地域おこし協力隊がいるわけですが、朝日、温海のみならず、櫛引とか、羽黒とかの対応も必要なのではないかなと思うのです。

総務企画課長

集落コミュニティの活性化が地域づくりにも繋がるというお話しで、それらをサポートする制度というお話しがありましたけれども、今ほどの地域おこし協力隊については、朝日地域の大鳥ですとか、温海地域の福栄地区に入っておりますし、様々な活動をする中で、地域が元気になってきているというのは、皆さんご承知のとおりでございます。それで、櫛引地域でも今現在、宝谷地区の方からの要望を受けて、予算要求に向けて協議を進めているという段階であります。宝谷については、年々戸数が減少してきていて、人口もかなり減ってきているという中で、これまで集落を支えられてきた、この先頭に立ってきた皆さんが、高齢化が進んできているという状況から、私どもも実現できるように支援しながら、これは明確なことは申し上げることができないのですが、かなうこととなれば、皆さんにもお伝えしたいと思っておりますので、ご承知おきくださいますとありがたいです。

委員

4つほどお話しをさせていただきますが、ひとつめは福祉対策の関係です。高齢者対策の取組みですが、私だけではないのですが、社会福祉協議会の方に委ねている事業ですが、市独自の取組みというのが、少し弱まっているのではないかなと思います。それから、櫛引地域の主な施設の中で、櫛引温泉ゆ〜Townがあるし、たらのき代スキー場もありますが、これらの将来的な取組みについて、あまり具体化されていないということで、普通の企業であれば、活性化する場合は思い切った取組みをするということになるわけですが、予算がないということのみで、思い切った施策がないというのが現状で、今後どういう取組みをするのか、それを具体化すべきではないかなと思います。それから鶴岡市全体のことですが、農産物の振興の関係ですが、特に多品目というのが出てくるわけですが、多品目というのは観光に結びつくと思うのですが、ブランド化には結びつかないと思います。

がってブランド化というのはボリュームがなければ、産地としては認められない。特に最上地域の場合は、きのこの産地とかニラとかアスパラとかかなりブランド化されているので、市の取組みとして観光を目玉にブランド化という二極化として取組みを進める振興策をとるべきだと思います。例を申し上げますと、枝豆、だだちゃ豆があるわけですし、品種がかなりあるわけですが、確かに表から見ればブランド化という格好になっていると思うのですが、秋田の枝豆ですね、湯あがり娘一本でブランド化に成功していると聞いておりました、枝豆というのは時期的に違いますので、群馬の早豆があるわけで、次に新潟の黒崎豆とか、どんどん北上してきているわけで、今言ったように、観光を目玉という考え方の農産物の振興と産地化の二極化というものを目指すべきではないかなと思います。それから、もうひとつは集落について以前は44集落があったわけですが、21集落に統合されたということです。それはメリットが出ているであろうと思うのです。朝日は50なんぼ、羽黒が70なんぼの集落で、依然として統合を進める考えが、私どもの耳に入っていないというのが現状であります。それなりに費用対効果が問題ではないかなと思います。櫛引の場合は、中学校区ひとつということで、広域コミュニティ化を目指しているわけですが、そういうところを置き去りにしながら、進めるということ自体は費用対効果からしても、デメリットが続くだろうと思いますので、その辺の考え方と、確か、合併前に調整項目が800以上あったわけですが、その調整項目が現在、100%に近い調整をされているのかと思いますが、このような問題も調整項目のひとつかなと思います。そのような課題を整理して、将来に向かうということが、肝心ではないかなと考えました。以上です。

市民福祉課長

最初に、福祉関係のお話がありましたので、私から若干、説明させていただきます。まずは市の社会福祉協議会という形で、色んな事業を展開しております。この背景については、社会福祉協議会の使命と申しますか、そういったものが重要視されてきて、地域に密着し、すべて行政で企画から運営というものを担うのか、色んなものが出てくる関係で、色んな方々のお力を借りながら、福祉の増進をしていきたいという考え方が根底にあると思っております。そのために具体的には色んな項目があると思いますが、市の取組みとして、それぞれの役割分担と申しますか、社会福祉協議会の方には、非常に大きなところを担っていると認識しております。市民全体から見れば全体としては充実している方向に向かうのではないかなと思っております。ただ、委員おっしゃるとおり、人材的支援というのを効果的活用をしてまいりたいと思いますので、そういう対策を講じながら、進めてまいりたいと思います。

産業課長

私の方からゆ〜Town とスキー場の件でお話ししますけれども、ご指摘のように2つの施設につきましては、櫛引の特徴的な施設であります。なかなか運営が容易でないと思っております。入浴施設は他の地域にもございますし、全体的に入浴客が減るなかで、どのようにお互いに施設を運営していくかということが大きな課題となってきました。また、スキー場に関しても、櫛引、朝日がありまして、これも同じような状況でして、ゆ〜Town の方は黒字で頑張っておりますけれども、スキー場については修繕とかが増高しております、プラスになっていない状況となっております。これは鶴岡市全体として、行財政改革の一環として本格的に見直しをかけているという状況でございます。また、櫛引庁舎としましても、産業課の中でのワーキンググループを立ち上げまして、これらの将来的なビジョンを詰めていくという取組みを始めたものです。それからもうひとつ、農産物についてのご

質問ですが、ご案内のとおり櫛引はフルーツの里ということで進めています、多品目、そんなに量はないけれども、非常に何でもあるというのが、この地域の特徴であります。これについては、先程、食文化のユネスコの話しがでましたけれども、地域の生活とか文化とか伝統とかも含めた形での地域の魅力ととらえておりますので、多品目、いろいろなものがあるというのは、強みであると思います。あともうひとつは、ブランド化というのは、やはりロットがないとブランド化とならないのではというご指摘ですけれども、特にこのフルーツについては、来年度から鶴岡市全体として、産地を拡大していこうという取組みをスタートする予定です。鶴岡市全体として、櫛引だけで、どんどん増やしていくというのは、難しいわけですし、羽黒とか鶴岡を含めながら、そういう取組みは、一方では、いわゆるブランド化として進めていきたいと思っております。以上でございます。

総務企画課長

小さな集落の統合再編という部分の費用対効果という部分で、そのままにしておくと、その費用対効果が出ないのではないかというお話がございました。確かに、その現状は櫛引の方はお話しいただいたとおり、44から21まで統合が進められたわけで、大変コンパクトであり、櫛引のように統廃合を進めたらどうかという意見も地域コミュニティの計画づくりで現実的であったというのが事実であります。ただ、計画の文面から言いますと、実際に統合再編として記載されたのは、羽黒や朝日ではなく鶴岡地域なのです。この鶴岡地域がなかなか小さい町内会があり、ここを統合再編するという考え方の検討を始めるという文章表現になっておりまして、計画は今年度末の策定期限でありまして、いずれ皆さんにも見ていただく機会もあると思います。なお、実情として小さな集落もあり、この集落維持が難しくなってきた部分を広域コミュニティがサポートするという形がコミュニティ基本方針の中で示されているということもございます。藤島、朝日、羽黒では広域コミュニティの組織が進められてきたということでありまして、櫛引でも話しを話し始めておりまして、その方向性を考えていきたいなと思っております。まだ、懇談会委員の皆さんにお示しをする段階まではいっておりませんが、関係機関と調整をしながら、私どものほうも21集落であるものの、そういったこともあり方を検討するという認識をしているところであります。なお、費用対効果の部分で言いますと、行革の部分では交付金はほぼ統一された考え方でまとまったわけでございますし、そういった部分は行革の方でも、達成をされたというような認識になっております。

委員

今のコミュニティの関連でお話しさせていただきますけれども、この実施計画の中の30頁に「広域的なコミュニティ活動の推進」というのが、概要として上がっていて、概ね小学校学区単位ということで、総合的な地域活動拠点となるセンターの整備を推進するという取組みが載っていますけれども、櫛引の場合は、去年あたりまで、小学校学区単位では容易でないだろうと、中学校区単位の広域コミュニティの検討と主な取組みに出されているわけです。小学校区単位の羽黒活動センターがオープンしたと新聞報道がありました。ああいう場合は施設があるので、すんなりいくわけですが、櫛引単位にひとつで進めましようとなった場合に、新しい施設整備になるのか、あるいは今の公民館になるのかと思っていました。今後具体的に検討していくうえで、新聞で羽黒とか情報が入るのですが、具体的にその運営する予算というのが、鶴岡市からくるのか、住民負担があるのかという話や、委託職員として配置になるのかといった問題ですとか、活動内容とか、軌道に乗った場合は、今の活動とどのように区別するのか、そういう資料やデータのものを懇談会ですとか、区長会の情報交換会だとか集落座談会とか進めていくわけですが、そこ

に出せる範囲でださないと、私達はイメージとか理解度が少ないので、こういう資料を出すことによって、イメージ理解度が高まるという資料提供を、本所とか地域庁舎の方と色々あるかと思うのですが、その辺を出していかないと駄目だと思います。予算はどうかと出さないと、経費が掛かって今の21集落を運営しているが他に金がかかるのであれば大変だとか、いろんな話しがでるわけで、ぜひその辺のデータを出してもらいたいの、今、その予算ですとか、大まかな話とか、わかる範囲で、この場で言うていただければと思います。

総務企画課長

今ほどお話ししましたが、検討会を持ちながら、その話しを進めていきたいと思っているものの、資料を作りながら、検討会の前の段階でどのような進め方がいいのかということに関係者と検討をさせていただいている状況にありまして、これがまとまる方向にいけば、今ほどありました、この地域振興懇談会には先にお話しをしたいと思いますし、そのほか地域の集落に出て、話し合いを進めていくような形とか、少しずつ進めていくのかなと思います。他の地域の予算等との関係は、そういった進め方の中で、皆さんにも、お示しをしていきたいと思っておりますし、現段階で、全体的なスケジュールをお示しできる段階ではないので、今しばらくお時間を頂きたいと思っております。

委員

コミュニティセンターが沢山あるわけですが、鶴岡市からの委託金というのは、もちろん100%出るのか、その地区によって差があるのか、その辺のところを本所のほうではわかるのではないのですか。

政策企画課課長補佐

詳しい資料は手元にないのですが、私は昨年、温海でコミュニティ担当をしておりましたが、温海の自治会長会役員会でも、そのような話が出まして、温海も同様に自治公民館制度をとってきたわけですが、地区公民館はあるものの、広域コミュニティに馴染まないということだったのですが、とりあえず施設を持たない形で、広域コミュニティ化を4地区進めていまして、同じような質問で、その時は概算で広域コミュニティに移った場合に、市の方から予算が来て、実際にイメージができるような資料を作った記憶があります。その際、どのように計算したかというのは今手元にないわけで、そういう資料は出来ると思っております。

委員

今、やっている羽黒とかの参考を聞けばわかるはずですよ。そんなに鶴岡市が広域コミュニティを進めていて、差の出るような進め方はしないと思います。基準はこうだと示して、その中で運営をしてくださいと、色んな指導が入るわけですが、地域で気になるのは自己負担が、自治公民館でも、西荒屋地区公民館は110軒ほどあるのですが、一軒あたり年間3~4万円と集めるわけですが、それ以外にまた、負担が出てくるようなことだったら、反対だと話が出てくる可能性があるんで、その辺のことを情報提供してもらわないと、と思っています。

政策企画課課長補佐

地域でもやって広域でやるような重複してやる事業でなくて、温海は集落公民館自体の運営が厳しくなって、事業が縮小もしくは事業がなくなってくると、こういったものを広域コミュニティでやって行きましょうというものです。広域でこういった事業をするかということと、市のお金の関わりでは、全体の計画を作らないと、詳細な数字が出てこないと思っております。今まで単独の集落でやっていたものを広域でやりましょうと、ある程度イメ

ージを掴んで計算していました。

総務企画課長

今、現段階も事前協議を進める中で試算の表を持ちながら、相談をしている段階です。

委員

ぜひ、情報を集めてもらって、今進めているところは参考になると思います。

総務企画課長

整理をして、一部開示をしながら、そのあり方や進め方でいいか協議を行っているところですので、今しばらくお待ちいただきたいと思います。

委員

空き家対策ですが、コンパクトシティとして市内の方で効率化を図っているのが主流になっているのですが、田舎暮らしとか農村、田園風景とか移住者というのは、そういったところに住みたいと思いますし、最近、見直されて、首都圏からリタイヤ組とか移住したいと思う人がいると思うのですが、空き家バンクについて、櫛引地域にはほとんどなかったと思います。私も4年前、探したのですが、ほとんどなくて、空き家に行って、近所の人から住んでいる人は誰ですかと聞こうとしたくらいですが、ある一定数の人数はいると思うので、市街地化調整区域といいますか、あまり家を建てられない、人は少なくともいいというような地域でも空き家を有効活用して、移住者に提供できる仕組みみたいなものを作ればいいのかと思います。あと、もうひとつですが、フルーツを櫛引として全面的にブランド化して、観光客に対しておもてなししていきたいと思うのですが、インターネットでの情報発信ももちろん大事なのですが、まず、情報を見て訪れた観光客に対して、看板がひどいというか、錆びて読めないとか、フルーツの里に来たのだよという、最初のおもてなしが、整備されていないと思います。極めて、観光客は、行きたい場所まで行けないかという、今はインターネットやナビとか発達しているので、行けると思うのですが、その場所に来たという感覚が大事なのですが、そのおもてなしの看板をまずはちょっとずつでも、整備してほしいと思います。以上です。

政策企画課課長補佐

空き家の方ですが、今年、担当課の方で5年ぶりくらいですが、空き家の実態調査を行い、空き家の所有者の方が地元にいるのかどうかとかアンケート形式の調査を行って、第三者に貸せるのか売れるのか、まったくそういう考えがないのか、色んな項目が入って、今、それを集計して、今できたかもしれないのですが、そういったことで、貸してもいいよ、売ってもいいよ、どちらでもいいよというのは、今、データベース化をして、ランドバンクさんを含め、様々、農業分野もございますし、提供していきたいということで、今は最新の情報を整備しているということでございます。ランドバンクさんは確かに件数が少なくて、実は、所有者の方でも、ホームページに載せてはいけませんよという方もいらっしゃるようで、すべてが載っているわけではないのですが、確かにニーズがあったような空き家を探す場合には、さすがに件数が不足しているなと私も第三者から頼まれておりましたので、それは建築課に相談しています。新しい、情報をどのように反映していくのか、ランドバンクさんにどのように反映していくのか、確認しているところであります。

産業課長

観光果樹園の話ですが、確かに果樹園に訪れる方が年々増えておまして、10%~20%単位でお客様が増えている状態でありまして、うれしいことでもあります。その中で、それぞれのおもてなしというのも統一したり、スキルアップをしたり頑張っているところですが、そこに至るまでの看板については確かに見落としていたというのが正直なところ

です。そういうことは大切なことなので、早速、チェックをしていきたいと思いを。

委員

観光果樹園の看板も大切なのですが、それよりも112号線の看板です。その看板が古くて、錆びています。細長い看板で、ちょっと汚い看板があって、本当にやっているのかなど。せっかくフルーツ狩りに来たお客さんに対して、どうしても寂れた感があったもったいないと思います。そこを優先して、観光果樹園の看板とかは後でいいと思います。

委員

観光果樹園の話が出ましたけれども、観光果樹園に携わっている側からお話ししたいと思うのですが、今、お話しあったように年々、入園者が増えております。直接、申し込む方と、近年は紹介所の紹介によって、申し込む方がいるのですが、今年は団体が多くて混みあった時は、断ってしまうケースが多かったのです。今年は申込みがあったけれど、受ける農家はどうかのかなということ、紹介所の職員と話したら、パンフレットがこのような立派なものが出ていて、何十件もPRしているよという話ですが、ぶどう農家は8~9軒、さくらんぼもその位あるのですが、さくらんぼも含めてぶどうも、ここに掲載されているが受け入れてくれる農家が少ないという話しをしておりました。やっぱり観光果樹園の関心も高まっている状況で、入園者も増えていて、今後は受入れ農家を拡大できるのか、こういったことを少し地道に検討していかないと、各農家に関わる話しですが、これが大きな課題であります。この前、それぞれ入園者の報告の義務があるのですが、その報告をしながら、産業課に行って、このような話しをしたのですけれども、今年の入込状況は多くなっているのですが、さくらんぼ、ぶどうについて、今年状況について、話しをしてもらえれば有難いのですが。

産業課長

集計したものが手元にないので、正確な数字は後で報告したいと思いますが、さくらんぼは増えているという状況ですし、ぶどうは若干、去年よりは減っています。トータルでは、観光果樹園の入込は増えているという状況であります。今、お話しあったように、登録を頂いている果樹園があるわけですがけれども、個々に見ていきますと、受入れられる時と受け入れられない時があるとか、沢山の人数は受入れられないといった、それぞれの農園の事情もあって、必ずしもまんべんなくご紹介している状況ではないと思います。一番は観光果樹園そのものの、横の連携といいますか、組織もございましてけれども、内容的な意思疎通が不足している状況でありますので、その辺は、これから詰めていきたいと思いを。

委員

櫛引の主な取組み、フルーツの里づくり、観光果樹、直売と大きく掲げているわけですから、その辺の中身を分析しながら、これから受入れ拡大をしていくことについて、農家も行政も含めて検討していかないといけないと思います。折角、鶴岡市がPRしておいて、看板の問題もできましたが、それらを含めて、少し改善をしていく余地があると思いを、ひとつよろしくお願いたします。

総務企画課長

看板の件については、古い看板について、私も承知しておりますけれども、なかなか市の看板であれば、ここで改善に向けた対策、対応をしていきますと表明が出来るのですが、古い看板、他にも点在しておりますけれども、生産組織の看板ですとか、個人の看板がほとんどなのです。危険性ということもありますので、こちらの方で指導しながら、改善に向けてお願をしていくというスタンスなのですが、なかなか、設置者も解体するにもお

金がかかるという話で、その辺を支援してもらえないかという話もありますし、それは担当課と協議をしているということでもあります。個人所有の看板ですが、ただ看板はおもてなしの意味でもきれいな方がよいというのはそのとおりですので、指導、支援をしていきたいと思います。

委員

12頁に介護者の相談支援とあります。今の団塊の世代が75歳になったら、4人に1人は認知症ではないかと言われている時代であります。そんな中で、昨日、定例会があったものですから、各地区から聞いてみたところ、地区に2人か3人は、認知症がいます。そんな状態で、団塊の世代が、75歳になったらどうなるのかと思ひまして、障害者だけでなく、認知症の相談とか、支援というのをに入れてもらおうとありがたいと思っております。

委員

たらのきだいのスキー場のことで、今、スノーボードをやる子ども達とかの利用も多くて、ハーフパイプとか維持する、設置するのにお金がかかるかもしれないのですが、もし、あつたら集客に繋がるのではないかなと個人的に思っております。東京で出産して、こちらに来たのですが、東京で子どもを育てている時は、特色のある保育園に通っていたのもあるのですが、泥遊びをしていたのです。ですから、帰ってくる時はスーパーの袋に着替えを必ず持って帰るという感じでした。こっちに来て、行った時の洋服で、そのまま帰ってくると、遊び方も自然の中にあるのですが、きれいに行って、汗をかかずに帰ってくるという不自然さを覚えていました。雨が降った時に泥合戦をするような保育園でしたので、極端であります。放課後対策で安全というのが謳われていたのですが、安全が第一ですが、自然の中で弁当と怪我は自分持ちくらいの考え方で遊べるような場所を作れないかなと思います。たらのき代の夏場であるとか、土地があるのだとすれば、そんな弁当と怪我は自分持ちくらいの気持ちで遊べると、その中で子ども達が遊ぶ場所というのを、お金をかけるのではなくて、子ども達が遊びを作るくらいの、プレーパークがいくつかあるのですが、自然を生かした遊びとか、そういうのがあつたら良いなと思います。

産業課長

スキー場の件ですが、将来的にスキー場をどうしていくかというのを、一生懸命考えているのですが、特に参考となるお話であつたかと思ひます。ありがとうございます。たらのき代スキー場は、特に子ども達に人気のあるスキー場でして、その中でも未就学児といひますか、保育園の子ども達がそり遊びで沢山くるというのが特徴となっております。地形的にも遊びやすいのだと思ひますが、色んな施設があそこにもありますし、夏といひますか、年間を通した遊び場となるような、賑わうような仕掛けができないかというのを、スキー場の振興策として、参考にさせていただきたいと思ひます。

あと、前回、重松委員から、リフト料金のことを聞かれましたけれども、シーズン券、中学生以下の料金は13,000円ですが、鶴岡市内の小学生だと半額で6,500円です。その辺が中学生になると実質2倍になる訳で、子ども達から沢山来てもらひ、賑わうような工夫を考えていきたいと思ひます。

総務企画課長

認知症とか他の分野は、こちらの方で承って、担当課にお話しをしていきたいと思ひます。

会長

それでは、この辺で協議を終わりたいと思ひます。事務局に返します。

総務企画課長

事務局で4. その他ということではありますが、私どもでは特に予定はありませんが、皆さんから、何かありますでしょうか。

5. 閉 会

総務企画課長

それでは、ないようですので、開会からおよそ1時間40分ほど、皆さんから慎重審議、ご意見を頂戴いたしました。何れも、貴重なご意見ばかりだったと思いますし、このご意見は政策企画課の方で持ち帰りまして、それぞれの政策を担当している担当課に伝えて、文章中の表現が、変わりますかわかりませんが、きちんと意見は伝わるということですので、よろしくお願ひしたいと思いますし、私ども庁舎で承った要望なり意見については、お答えしましたとおりに対応してまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。次回からは、質問を事前に聞いたりして、お答えを準備して、明確な答えができるような工夫もしていきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

以上を持ちまして、第2回櫛引地域振興懇談会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

11:40